

# 令和3年度の事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

法人名 特定非営利活動法人もちもちの木

## 1 事業の成果

別添資料参照

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業名)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (単位：千円)
介護保険法 による認知 症対応型共 同生活介護 の居宅サー ビス事業	認知症高齢者の為の グループホームの運営 ①グループホーム土橋のおう ち ②グループホーム古田のお うち	(C) 土橋=11名 古田=12名	(D)認知症 要介護高齢 者 (E)定員各9 名、計18名	81,049
介護保険法 による通所 介護の居宅 サービス事 業	要介護認定高齢者の為の デイサービスの運営 ①デイサービス土橋のおう ち ②デイサービス古田のおう ち	(C) 土橋=14名 古田=11名	要介護高齢 者 定員 土橋13名 古田13名 計26名	53,529
障害者の日常 生活及び社会 生活を総合的 に支援するた めの法律に基 づく地域生活 支援事業	障がい児(者)の為の支援 ①日中一時支援	(C) 土橋=14名	障害児(者) 定員3名	

高齢者、障害者の趣味活動、社会参加の援助 高齢者専用賃貸住宅以外の高齢者住宅の運営管理ほか	①ふれあいサービス もちもちの木 ②地域交流広場古田の おうち ③地域交流広場庚午の おうち ④地域交流広場土橋の おうち ⑤庚午のおうちシェア ハウス	(C) ①土橋=1名 ②古田=3名 ③庚午=2名 ④土橋=4名 ⑤ 庚午=1名	①延べ 62名 ②延べ 249名 ③延べ 2,501名 ④延べ 66名 ⑤定員6名	14,534
--	---	--	---	--------

(2) その他の事業  
 実施なし

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

## 【別添資料】令和3年度 特定非営利活動法人もちもちの木 活動報告

新型コロナウイルスの感染予防のために全職員で衛生管理と行動管理に取り組み既存の事業を維持継続させながら、新しい居住支援指定法人としての事業を立ち上げ具体的な支援を開始した。

理念の共有、ミッション、ビジョン、目指すべき人物像を浸透させて次世代への方向を明確にし、多様な価値観を認め合う組織作りの評価制度を開始した。

庚午のおうちのコミュニティスペースは新しい生活様式のもと地域で役立ち活動できるように感染予防と環境整備し地域活動での感染者は無かった。

コミュニティや人材育成と相談事業のほかすべての会議のオンライン化を継続し実践した。

### ○ミッション：使命

住民参加とボランティア精神のもとに、地域に根差したサービスを提供し、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与する事

### ○ビジョン：将来像

人の縁という財産を創ろう

世代を超えた多世代のつながりが新しいセーフティネットになる

### ○もちもちの木の目指す人物像

「優しさと勇気のある人」

失敗を隠さず、嘘なく、個人を責めずチームで受け止め、想いを言語化して、いち早く状況を整理し改善に向き合う人

### 「地域と共にある法人」

地域コミュニティ支援事業と介護事業をリンクさせ、新型コロナウイルス感染予防に対応できる新しい生活様式を定着させることで“地域から考える新しい介護のカタチ”を創造する。

地域活動者の暮らしのリスクマネジメントをして、これからの介護を予測しリアルな情報を提供して介護の方針決定を手助けする仕組みを「居住支援」という新たな事業で試行錯誤した。

### 「働き方改革」

健康的に成長させる、100年時代を踏まえた社会人基礎力の獲得と生産性の向上を図った。

### ●人材育成 → 「4. 総務」に記載

人材育成チームを編成しオンラインを介した人材育成を並行して実施するためにオンラインス

キルを標準化し全事業所でおおむね達成できた。

評価制度を確立し数値化を試みた。

★肯定ファースト ★社会人基礎力 ★情報の共有 ★責任の共有  
★介護技術 ★課題解決 ★社会人マナー

●情報共有・責任共有

引き続き全事業所で毎日のミーティング（日々の調整）、カンファレンス（実行計画）を実施する。

サイボウズと共有ボードを活用し「業務の見える化」の維持継続を図った。

介護記録は電子記録に移行した。介護保険上の同サービスでの記録等を統一することにより事業所間でのスポット勤務が円滑になる仕組みをつくるための取り組みはできなかった。次年度にて実施する。

目標は個人面談にて明確にした。社労士の協力を得て業務と責任領域の明確化は職務調べを実施し具体的な項目で可視化した。

全職員に個人面談で目標設定し、自主的にスキルアップできるよう研修の体制として2022年2月より「自主学習会もちもちの木ケアメソッド」を開始した。

→「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」に記載

●介護環境整備 移乗サポートロボット Hug、浴室改装とバスリフトの導入をした。

「利益確保」

利益確保することが事業継承には不可欠！として、役員に次世代を受け入れ世代交代の準備を行った。引き続き営業力強化しグループホームの経費削減に取り組みたい。

人件費率62%を基準とし決められた時間内で業務を行い、残業減の為に出勤時間や業務分担を見直すことを3事業所で着手でき改善する土壌が整った。これまでの事業のオンライン化は現状維持にとどまり進展はできなかった。

「経営と運営」

●経営会議の開催 →「1. 会議」に記載

理事会役員、管理者、リーダー、総務担当者、その他の有識者で開催し毎月の経営会議で時代に合った経営に関する必要な知識や考え方を知り理解した。前月のデータを共有し分析する。またそれに伴うアクションプランの作成と修正を行った。広銀コンサルティングは契約を更新しなかったが融資担当者として全体会議で経営基準など事業の分析をしていただいた。

●管理者・リーダー会議の開催 →「1. 会議」に記載  
 管理者・リーダー・総務担当者、その他の有識者で開催  
 事業所運営に関する必要な知識や考え方を理解し職員の研修の実施状況、アクションプランの進捗状況を報告し共有した。

各職員が利用者確保にむけて意識して営業の協力（広報紙配布、電話対応、来訪者対応、地域住民・親戚への口コミ等）は得られたが計画的なアプローチには至っていない。

地域からの相談・紹介・介護事業所の利用やデイからグループへの入居を数値化（地域からの各事業所の信頼度の評価）は今後の課題となった。

『より長く、より回数多く利用したいデイサービス』の実践については社会の変化と家族の介護力が変化でロングショート利用や入所が早まり定員の対応の見直しが課題となった。

『より早く入居したいグループホーム』と思われるような取り組みは地域活動者との研修やカフェでの情報提供や連携を図り稼働率約94%で維持できた。

【利用相談・体験・利用および中止件数、デイからグループへの入居者数】

	待機登録 (R4.3 現在)	新規入所者
グループホーム土橋	9件	4名 (うちD土橋利用者0名)
グループホーム古田	11件	1名 (うちD古田利用者0名)

	利用相談	体験	新規	利用中止
デイサービス土橋	10件	5名	3名	7名
デイサービス古田	20件	17名	12名	5名

●展開中の新規事業

- ① オンライン介護相談 2件
- ② コンサルティング 3件 5回 →「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」に記載
- ③ オンライン研修 法人主催は未開催
- ④ スペシャリストによる看護・介護の自費サービス EssentialCareAttend 利用者2名4回
- ⑤ 外国人介護技術技能試験評価 実習生評価試験 1回
- ④ 居住支援事業 補助金獲得 2021年に指定取得 →「5. 居住支援法人」に記載

1. 会 議

(1) 第20期通常総会[オンライン]

令和3年6月19日(土) 18:30~19:30

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催とした。

ZOOM参加: 理事長・副理事長・監事および正会員4名

活動報告担当職員9名

YouTube 配信視聴: 地域活動者3名、その他の職員

(2) 理事会

毎月の経営会議と同日開催とした。

(3) 経営会議

理事長、副理事長、各事業所管理者、総務が毎月会議を開催、各事業所の月次収益・稼働率について協議・情報共有を行った(計12回開催)。

(4) 管理者会議(計12回開催)

各事業所管理者、総務が毎月会議を開催、事業所の状況報告、人事、安全衛生等について検討を行った。

(5) 法人全体会議

【第1回】令和3年9月27日(月) 18:30~19:30 オンライン

所定労働時間について(まつむら社会保険労務士事務所)

上期の経営状況(広島銀行)

新規事業「居住支援法人」、土橋のおうち移転検討について

※18:00~18:30 キャリアパス研修実施「介護予防及び要介護度進行予防のための口腔ケア」

講師: 副理事長 岡部栄夫先生

【第2回】令和4年2月28日(月) 18:30~19:30 オンライン

就業規則等改正、労働災害について(まつむら社会保険労務士事務所)

介護職員ペア制度、個人評価制度について

令和4年度の人事体制について

(6) 衛生委員会(計7回開催)

・新型コロナウイルス対応のため4月に臨時開催し、自宅待機となった濃厚接触者1名の業

務フォローのほか感染防止対策を再確認した。その後、職員の陽性者（疑い含む）2名が確認されたものの自宅療養を経て職場復帰することができた。

- ・新型コロナウイルス変異株の特徴に合わせて感染防止対策を見直した。
- ・夏と冬の5S活動のほか、各事業所で職場環境改善を行った。

## 2. 介護事業

### (1) 土橋のおうち

◎グループホーム土橋のおうち（定員9名）

入居状況（令和4年3月31日現在）

入居者 9名（女性7名、男性2名） 平均年齢 85.1歳） 平均介護度 2.7

介護度	人数
要支援2	0
要介護1	2
要介護2	2
要介護3	3
要介護4	1
要介護5	1

カンファレンス 毎月定期開催（計12回）

運営推進会議 隔月開催（計6回）

※6月は総会を兼ねて開催

※新型コロナウイルス感染防止のため文書にて報告

研修 キャリアパス研修受講 ※6-（3）参照

消防訓練 9/24、3/25 いずれも運営推進会議と同時開催

行事

4月	花見
9月	敬老会
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	節分豆まき
3月	花見

※このほか入居者全員の誕生日会を行った。

### 【令和3年度 活動報告】

#### ①スタッフのスキルアップ、レベルアップ

- ・感染症の知識と対応を学び、それぞれが習得する
- ・異常時に気づき対応ができる（体調不良の早期発見、多職種連携を実践する）
- ・予測性のある介護ができる
- ・身体的拘束等適正化委員会に基づき、日々の関わりより不適切なケアに気づき虐待の勉強会を継続していく。
- ・科学的介護推進のため、根拠に基づいたケアを学び取り組んでいく
  - ➡せん妄がひどい利用者様、パウチ交換が必要な利用者様が入居されたこともあり、緊急カンファおよびパウチ交換の動画を撮ってもらい対応を協議した。主治医往診時にNシステムを活用できた。

#### ②ご家族様との信頼関係の構築

- ・報告の徹底
- ・月に1回お渡しする手紙の文章能力を付ける
  - ➡報告を第三者に見てもらうことで、ある程度の責任感を持つことができた。

#### ③チーム能力のアップ

- ・スタッフ個々の個性が生かせる職場づくり
- ・観察能力を高め、助け合う気持ちをもって仕事ができる
- ・自身の言動に責任を持つ
- ・ホワイトボード、Nシステム、サイボウズを活用し情報共有を行う
  - ➡システムやサイボウズの活用方法にも慣れて、以前よりも意見交換やサイボウズの活用が活発となっている。
  - ➡ホワイトボードを活用して申し送りをおこなうことに慣れてきている。
  - ➡コロナ禍で外出が減ったが、おやつ作り等グループホーム内でできるアクティビティができた。



◎デイサービス土橋のおうち（定員13名）

登録者 計22名（令和3年3月31日現在）

稼働率 平均55.7%

利用相談10件 体験利用5名 新規利用者3名 利用中止7名

介護度	登録者数
要支援1	0名
要支援2	0名
要介護1	4名
要介護2	4名
要介護3	5名
要介護4	0名
要介護5	8名
日中一時支援	1名
計	22名

【令和3年度 活動報告】

「私たちは利用者・家族・地域住民・他の事業者と生活者として対等の関係であり、与えられた課題を、解決に向け協力して取り組んでいく仲間である。住み慣れた地域で生き続けるために予防と自立支援し暮らしの潤いを保ちつづけるための援助者となる」

新型コロナウイルスの影響で利用見合わせ及び重度化した利用者の入所・長期入院で利用稼働率が不安定だった。登録者数は大幅に減少、新規についても相談件数10件に対して利用開始3名と1/3以下にとどまった。営業活動は次年度の課題としたい。

1. 介護実践能力の向上

根拠に基づいた介護の提供

感染症についての専門的な知識

➔ 利用者の症状などの早期発見に取り組み、他の事業所と連携し未然に症状悪化を防ぐことができた。

## 2. 利用者に関わる連携の強化

➔ 担当者会議でデイや在宅の状況を家族やケアマネに伝え、先を見据えたサービスの提案を行うことで在宅生活の立て直しを図った。

## 3. 専門性の開発

➔ キャリアパス研修に参加したものの、それ以上に専門的に学ぶ機会を作ることができなかった。

## 4. 活気ある職場づくりを推進する

➔ ホワイトボードの活用、サイボウズの活用を通じてデイサービス古田のおうちと共通の利用者情報を共有し、円滑にケアを行うことができた。

## 5. 経営・運営に参画する

➔ 営業活動はほとんど行えなかったため、次年度の課題とする。

## 6. 地域包括ケアの拠点となる事業所作り

➔ コロナ禍ということもあり地域活動は状況に合わせてオンライン開催か、リアル開催では時間短縮の対応をとった。

## (2) 古田のおうち

### ◎グループホーム古田のおうち（定員9名）

#### 【令和3年度 活動報告】

「私たちは、認知症になっても一人ひとりの尊厳が保たれ、自立支援と重度化防止が図れるよう、より良いケアの研究と情報共有を積極的に行います。」

#### 1. 働きやすい職場環境づくり

- ・自身の健康管理により、明るい挨拶ができ、社会人として責任ある行動ができる。  
⇒コロナ禍において心身ともに疲弊する中でも、助け合いながら業務遂行ができた。
- ・介護システム導入により、記録業務の簡略化を図り、利用者の情報共有が円滑にできる。  
⇒記録の簡略化はすすんでいるが、情報が円滑に共有できるまでに至っていない。

- ・朝礼時、ホワイトボードで一日の予定を確認、実施計画を共有する。  
⇒朝礼もルール化され、利用者の体調、担当スタッフ、来客などが把握できるようになった。
- ・サイボウズにより、組織内の情報共有「確認・連絡・報告（かくれんぼう）」ができる。  
⇒シフト制勤務であっても、各自で情報収集ができるシステムが確立された。
- ・浴室、脱衣室を利用者やスタッフが安心安全に使えるよう改修する。  
⇒国庫補助制度を活用して安全に改修を行うことができた。

## 2. スタッフのスキルアップとケアの質向上

- ・認知症の専門知識を深め、本人に寄り添った適切なケアができる。  
⇒各スタッフでの価値観をすり合わせながら、寄り添うように努めることができた。
- ・介護技術の習得により、安全で安心なケアを行い重度化防止に努める。  
⇒研修や評価制度の実施により、介護職の技術向上が図れた。
- ・科学的介護推進体制を図り、PDCAサイクルで根拠あるケアに努める。  
⇒加算体制は確立した。PDCAサイクルにより現場スタッフのモニタリング力が向上した。
- ・カンファレンスの開催により、ケアプランの確認及びケアの統一を図る。  
⇒カンファレンス会議は定着し、多職種でプラン及びサービス内容の点検が実施できた。

## 3. 介護・医療と地域連携

- ・オンライン面会や、月の便り、電話などにより積極的にコミュニケーションを図る。  
⇒希望者のオンライン面会は実施できた。コロナ禍により、各家族によってコミュニケーションの方法に差が開いてしまった。
- ・防犯カメラの運用により、事故の発生または再発を防止することができる。  
⇒4/25、防犯カメラの設置完了。県防犯カメラ設置ガイドラインに基づいた設置及び運用ルールを規定し、入居者の安全を見守ることができるようになった。また、事故の再発防止についての行動分析にも活用できている。
- ・地域住民、本人、家族に寄り添った伴走型支援拠点としての位置づけを獲得する。  
⇒相談業務の目標として実践中、未達成。

## 4. 安定した事業運営の継続

- ・感染症や災害時の対策についてマニュアルや備蓄の整備を行い有事に備える。  
⇒マニュアル作成はできたが、実践で有意なものにはなっていない。
- ・毎月のMTGにより、業務分担、内容を常に見直し、人件費率62%を目指す。  
⇒入居率が安定していたため、人件費率は達成。業務分担、内容の見直しは継続。

入居状況(R4/3/31現在)

介護度	人数
要支援2	0
要介護1	2
要介護2	2
要介護3	2
要介護4	1
要介護5	2

定例MTG 毎月第1水曜日(計12回開催)

運営推進会議 5月、7月、11月、3月に開催、9月、1月は蔓延防止対策により書面開催とした。

研修 計画されたキャリアパス研修を実施することができた。

◎デイサービス古田のおうち(定員13名)

### 【令和3年度 活動報告】

#### 1. ユマニチュードの更なる徹底

##### ○ケアの5つのステップの実践

⇒昨年度から、ユマニチュード基本の5つのステップ(出会いの準備・ケアの準備・知覚の連結・感情の固定・再会の約束)を継続して実践してきた。全ての状況下において、完成された訳ではないが、成功事例も増えてきた。今後もスキルアップのために、定期的な研修機会をつくることが課題である。

#### 2. 機能訓練に職員全員で取り組めるようになる

##### ①効果的な居宅訪問の実施

⇒看護師を中心に、送迎のタイミングを活用して居宅アセスメントの実施ができた。

##### ②居宅訪問のスケジュール管理の徹底

⇒看護師が必須日程の管理を行い、個人ファイルの背表紙にて全員が目視できるよう工夫した。

新規利用者には概ね個別機能訓練加算の取得ができるようになった。

#### 3. ICTやオンラインを積極的に活用する

##### ①Nシステム、LIFE等研修の参加

②Nシステムに慣れ、サイボウズと合わせて必要な業務として業務時間内でルーチン化

⇒Nシステムは慣れるためにスタッフ全員が協力し合い業務の簡略化が進んできた。LIFE 入力、看護師・相談員等に限られているが、定期的な入力ができるようになった。システムの連動やLIFEの方向性を見極めることが課題となっている。

③業務の振り返りや報告の実施

⇒日々の出来事をサイボウズやNシステムを活用して共有することができるようになった。定期的なMTGにより、事業所の課題を共有することで、全員が解決に向けて検討協力することができた。

#### 4. 業務内容の改善を図る

①ホワイトボードの改善を行い業務の可視化と共にチェック機能を持たす

⇒朝の送迎、当日の業務内容等、忘れてはならないことを可視化することで、当日メンバー全員が関心を持ちフォローできるようになった。

②情報共有しチームワーク・連携を強化し維持する

⇒非常勤スタッフも利用者様の変化に対応することが容易になった。日々、気づいたことをサイボウズやNシステムで共有し合い、ホワイトボードも進化している。

#### 5. 経 営

利用実績 8. 2名(+0. 5) 機能訓練 実数 15名(+7)

○新規利用者獲得のために、空き情報提供に営業を行った。

○職員全員が経営への関心を高め、毎回のミーティング項目とした。

曜日によっては空きがあるにも関わらず、ケアマネに伝わっていないことがわかった。ショートステイとの併用により、曜日定員が埋まっているかのように見えても、実際は空きが出ている状況があった。重度認知症の本人・家族との連携は安易ではなく、手間や時間もかかるが、日常のスタッフの丁寧な対応に評価は悪くない。定期的な営業活動により、新規獲得を行い、出来る限り本人らしい在宅生活が続けられるチームケアの実践を様々なツールを使ってアピールしていくことが必要である。

運営推進会議(4回) 5/3、7/14、11/17、3/23

研 修 キャリアパス研修受講

ミーティング 毎月1回開催 計12回

### 3. 地域コミュニティ支援事業

## (1) 土橋のおうち

### ◎もちもちカフェ（認知症カフェ）

毎月第1土曜日 13:00～16:00

参加者 延べ50人（1回あたり平均 5.5人）

認知症の人とその家族 延べ11人

中区認知症地域推進支援員、国泰寺地域包括支援センター、中区社会福祉協議会等と連携し協力を得て開催した。新型コロナ感染予防のため会場での参加を5名までに限定し、同時にオンライン開催とした。当事者が毎回オンラインで対話する機会を持つ事で気持ちが前向きになられた。N 中区社会福祉協議会の若い世代の集い「ボランティア広場」で認知症の方の理解を深めもちもちカフェにも参加があった。ヤングケアラーの話題なども身近に起きていることを共有し小さな配慮が大切なことを学んだ。

### ◎スマートブックカフェ 6回 参加者 延べ16人

お気に入りの本を紹介して、対話しながら交流するカフェを実施。

前年度に引き続き、デイサービス利用者でもあるカフェ主催者の介護計画の一環として位置づけ体調管理のサポートを受けながら開催した。

### ◎西本川のむかしむかしまちの史跡と神社ものがたり 活動休止中

### ◎日本酒持ち寄り自己満足の会 活動休止中

### ◎手打ち蕎麦 土橋の会 活動休止中

### ◎実践！自己探求ヨーガ 活動休止中

### ◎cotocoto@（ことこと@） 活動休止中

### ◎手話サロン オンライン化を検討したが開催できなかった。

### ◎坂町平成ヶ浜 仮設住宅カフェ 活動休止中

土橋のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和4年3月31日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
もちもちカフェ(認知症カフェ)	第4木曜日	13:00～16:00	8回	50人
スマートブックカフェ	土曜日	14:30～15:30	6回	16人
				参加延べ人数 計66人

## (2) 古田のおうち

### ◎地域食堂（デイサービス古田のおうち）

毎回、地域の方が集い和やかに会話を楽しみながら食事をされていたが、新型コロナウイルス感染予防の為に開催できなかった。

### ◎もちもちオレンジカフェ

毎月第4火曜日14:00～16:00開催。地域のご夫妻が数組、定期的に来られるようになりお茶を飲みながら当事者・家族が気軽に相談や情報収集ができていたが新型コロナウイルス感染予防の為に開催できなかった。今後は「cafeわ・おん」を紹介し活動終了とする。

### ◎古田ママの会

令和3年4月～令和4年3月 6回実施（5月6月7月8月9月2月中止）

利用のべ数、親子30組(子ども33名)

対象：未就園児とママ&プレママ

日時：毎月第2金曜日 10時30分～11時30分

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響や、大雨や台風の影響で、6か月分が中止となった。また、古田のおうちでの開催ができないため、オンラインや古田公民館での実施となった。内容は、ヴァイオリンとピアノのコンサート、手形アート、スキンタッチ、ママブラスコンサート、オンライン新年会、講演会を開催した。講演会は、ママの会10周年を記念し、講師を招いて、「楽育子育て～コロナ禍でも子育て楽しもう♪～」というテーマで、ママたちを応援する内容で開催した。

### ◎若年性認知症の本人家族の地域生活支援を考える会

圏域内の調整を図り、毎月4日曜日13:00～16:00に変更して開催。蔓延防止対策中も繋がりを途絶えさせないように、オンライン&ハイブリッドを使用して開催するように努めた。オンラインを使うことによって当事者、家族の参加は減ったものの、地域の集いの場が閉ざされた中、専門職のコミュニティとしての効果は大きかった。(4/25、5/23、9/26、10/24、11/23、12/26、3/27)計34名

### 古田のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和4年3月31日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
古田ママの会 ※古田公民館で開催	第2金曜日	10:30～11:30	6回	89人
地域食堂	毎週月水木曜日	11:00～13:00	中止	0人
笑いヨガ タッピングタッチ	第4火曜日	11:00～12:00	中止	0人

もちもちオレンジカフェ	第4火曜日	14:00~16:00	中止	0人
若年性認知症を考える会	第4日曜日	13:00~16:00	7回	34人
参加延べ人数 計123人				

#### 自主活動グループ

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
歌のサロン 音連れ	第1・3金曜日	13:00~15:00	中止	0人
ふれあい交流会「いろり」	第2火曜日	11:00~14:00	中止	0人
しあわせ体操	毎週土曜日	9:30~11:30	21回	84人
カフェ 万葉の和	第3土曜日	11:00~12:00	6回	42人
古江新町町内会	第1土曜日	10:00~12:00	中止	0人
参加延べ人数 計126人				

### (3) 庚午のおうち

#### ◎多世代シェアハウス 庚午のおうち

入居者 計6名（90代1名、60代2名、40代1名、20代2名）

満室（令和4年3月現在）

昨年度より居住支援指定法人の指定を受け専任の担当者を配置し、住宅確保要配慮者の入居先として活用が始まった。

10月に住宅難民となった60代の方の入居支援をおこない総合的な生活相談も開始した。

毎月1回「快適シェア会議」を開催しルールの確認をし合っていたが新型コロナウイルスの感染予防のために会議は休止している。感染予防のために手洗いマスクを実施中。

広いシェアハウスなので個々の暮らしを守りながら適度な協力をして支え合っている。

#### ◎もちもちの木 オープンスペース 「もちもちの子こうご」

令和3年4月～令和4年3月 オープンスペース31回 個別相談16回

利用のべ数 親子133組 子ども158名 個別相談 40件

対象：未就園児とパパママ&プレママ

日時：毎週月曜日10時～14時

新型コロナウイルス感性拡大防止のため、広島市からの要請で、オープンスペースが開催できない期間もあったが、個別相談は実施し、途切れなく地域での子育て世代支援を行った。夏は、感



染防止のためプールはださなかったが、水遊びは実施した。また、七夕やクリスマスなど、季節の飾りも行ったり、季節の歌や手遊びの動画配信も行った。

#### ◎庚午カフェ

第1・3火曜日開催。コロナ感染予防のため食事提供は中止し「集まらなくても繋がっていく方法」として持ち帰り弁当、お一人様お節料理を提供した。

弁当の数が増加したため9月に食品衛生営業許可証を取得した。食品衛生営業許可証を取得するために約16万円の設備工事が必要となり地域住民に寄付のお願いをして環境整備することができた（巻末資料参照）。

地域の方の要望を聞かせてもらい8年経過、住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

#### ◎健康マーじゃん

第1・3・5水曜日「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに発足して9年目に入る。新型コロナウイルス感染対策として、3密を回避するため初心者用に午前中のスペースを確保。マスク、手洗い、換気、消毒を留意して開催した。

#### ◎ふれあいサービスもちもちの木（生活支援）

庚午カフェ開催時、地域の困りごとを聞く中で生活支援の必要性を感じ「ふれあいサービスもちもちの木」の活動エリアを庚午・草津・古田近郊に限定して再構築した。

キックオフ（説明会）10/26 参加者13人 支援員登録21人

活動開始 11/1

利用実績 利用者3名 のべ62回

◎多世代寺子屋 縁きよりミーティング 不定期 19時～ 中止

◎よるのちょうない会 オンラインで会いましょう 不定期 19時～ 休止

◎たぬき倶楽部 第3水曜日 19時～

リアル開催は休止しソフトボール部のみ 2回開催（4/21・10/27）

庚午のおうち 地域交流広場利用集計

団体名・活動名	活動回数	参加延べ人数
---------	------	--------

庚午カフェ	※法人事業9月より	17回	弁当929食
健康マージャン		29回	811人
多世代寺子屋	縁きよりミーティング	0回	中止
よるのちょうない会		0回	中止
たぬき倶楽部	ソフトボール部のみ開催	2回	11人
オレンジャーひろば		6回	117人
もちもちの子	こうご ※法人事業	47回	516人
その他		21回	117人
合計（延べ数）		114回	2,501人

#### 4. 総務

##### 【オンライン化・業務改善】

- ・介護システム「Nシステムケア」を全事業所に導入し、介護記録の大半をオンライン化した。
- ・法人所有パソコンを総務で一元的に管理できるよう整備した。
- ・土橋のおうちの電話工事を行った。
- ・夜勤者の業務負担軽減と事故発生時の記録等のため各居室にカメラを設置した（グループホーム古田のおうち）。
- ・グループホーム介護職員の人員不足を補うため、配食業者および清掃業者に一部業務を委託する選択肢を設けた。

##### 【人事労務・安全衛生】

###### ◎就業規則改正

昨年度につづいて就業規則・規程を改正（作成）した。

改正： 就業規則、非常勤職員就業規則、給与規程、育児・介護休業等に関する規則

作成： 職場におけるハラスメントの防止に関する規程（内規）

衛生管理および衛生委員会に関する規程（内規）

###### ◎人事評価制度

介護プロフェッショナルキャリア段位制度、職務評価、コンピテンシー評価等にもとづく新しい

人事評価制度の検討を行った。

### ◎産業医の事業場訪問・意見聴取

第1回 令和3年7月28日 ※まん延防止措置期間のため郵送にて実施

特定業務従事者（夜勤者）健診結果の意見聴取12名

産業医：山崎浩之 先生

第2回 令和3年2月17日 土橋のおうち

定期健診結果の意見聴取27名、職場環境チェック

産業医：岡本和子 先生

◎衛生委員会 →「1. 会議」に記載

### 【法人経営】

・事業継続計画（BCP）策定に向けて浸水時の古田のおうちの避難場所（垂直避難）を検討。

### 【人材確保】

#### ◎離職率

昨年度の法人離職率は過去最低となったが、新型コロナウイルスの影響もあり全国平均（上半期）も離職率低下傾向にある。

法人離職率 10.4%（令和3年度）

全国平均 [産業計] 8.1%

[医療、福祉] 8.6%（厚生労働省「令和3年上半期雇用動向調査結果の概況」）

#### 令和3年度 採用実績

	ハローワーク等 公的機関経由	人材紹介会社経由	職員・知人の紹介 (のちハローワーク経由)	計
面接件数	8件	8件	3件	19件
採用人数	3名	4名	1名	8名

#### 離職率

年度	年度当初の在職者数	退職者数	離職率
令和3年度	48名	5名	10.4%

#### ◎職場体験

7/14・15 広島県「わーくわくママ」職場体験プログラム 土橋・古田に各1名受け入れ

## ◎法人紹介

11/10 広島県「子育て世代向け企業説明会」オンライン参加

## 5. 居住支援法人

「広島県住宅確保要配慮者居住支援法人」の指定を受け、居住支援法人もちもちの木がスタートした。(令和3年5月20日)

支援者向け、不動産向けの2種類のパンフレットを作成、10月から本格的に営業活動開始、相談業務も増えてきている。

令和3年度 相談12件 成約4件

令和3年度居住支援法人活動支援事業補助金交付(国土交通省)

10/2 民生委員の定例会 説明

11/18 国土交通省 住宅局 安心居住推進課 ヒアリング

12/15 居住支援法人説明会 開催

広島市住宅政策課 講演「住宅セーフティネット制度における居住支援法人の役割」  
もちもちの木「2040年のフルハウス構想」「ふれあいサービスもちもちの木」

[参加22名]

不動産関係者 6名

社会福祉協議会 3名

地域包括支援センター 3名

広島市 2名

広島県 1名

中国新聞社 2名

その他 3名

3/15 ぐらしサポートセンター連絡会「もちもちの木の居住支援事業のとりくみについて」講演

## 6. 講師派遣、研修・地域活動への参加

(1) スタッフの参加

◎土橋・本川地域の活動への参加

法人として土橋町町内会役員（会計・総務）を担当した。

新型コロナウイルス感染防止のため町内会総会は中止となった。

実施日	内容
8/5	原爆死没者慰霊祭

(2) 講師派遣

◎認知症サポーター養成講座

講師 竹中庸子

実施日	内容
4/3	神崎地区 認知症ステップアップ講座③
4/30	認知症サポーター養成講座 広島銀行 新人研修
10/23	ボランティア広場 中区社協
2/7	認知症ステップアップ講座①(明治西日本)
2/14	認知症ステップアップ講座②(明治西日本)
2/23	ボランティア広場 振り返り 中区社協

講師 木田裕子

実施日	内容
4/30	広島銀行研修 広島市地域包括ケア推進課
6/28	中区江波児童民生委員 江波包括
7/6	西区井口中学校認知症サポーター養成講座 井口・井口台包括
7/21	認知症ステップアップ講座フォローアップ 大洲包括
7/26	田方上町内会認知症サポーター養成講座 古田包括
8/12	五月丘社協 認知症サポーター養成講座 美鈴が丘・五月が丘包括
8/20	西区認知症アドバイザー養成講座 西区地域支え合い課
10/23	五月丘社協 認知症ステップアップ講座 美鈴が丘・五月が丘包括
11/22	広島銀行西支店 認知症サポーター養成講座 井口・井口台包括
11/27	五月丘社協 認知症ステップアップ講座 美鈴が丘・五月が丘包括

12/10	五月丘社協 認知症ステップアップ講座 美鈴が丘・五月が丘包括
12/16	古田商店街、地域住民 認知症サポーター養成講座 古田包括
1/17	西区徘徊ネットワーク 認知症サポーター養成講座 西区地域支え合い課
2/17	広島学院中学校認知症サポーター養成講座 古田包括

◎その他の講座・シンポジウム等

講師 竹中庸子

実施日	内 容
9/17	居住支援協会 オンライン研修
9/17	介護セミナー ママ楽サポート
10/2	日本世代間交流学会
10/26	ふれあいサービス研修 キックオフ
10/30	中区アドバイザー交流会
11/7	広島市認知症アドバイザー養成講座
11/26	南区アドバイザー交流会（オンライン）
12/10	中区アドバイザー交流会（オンライン）
12/15	居住支援説明会@庚午のおうち
3/6	NHKフォーラム（オンライン配信）

講師 木田裕子

9/11	全国終末期リハ・ケア学会広島大会 主催：全国リハ・ケア学会
11/25	古田地域 町づくりプロジェクト 主催：西区社協・古田包括

◎介護技術評価・研修

実施日	内 容
11/19	外国人介護技術技能試験評価 長崎病院 評価者 竹中庸子
11/27	実務者研修・医療的ケア実習 会場：古田のおうち 職員4名参加 講師 浜田美雪

(3) コンサルティング      コンサルタント 竹中庸子

実施日	内 容
-----	-----

6/3	一般社団法人A様 (オンライン)
7/3	一般社団法人A様 (オンライン)
10/9	株式会社G様 (オンライン)
10/28	株式会社G様
1/20	S様 事業立ち上げ

(4) 研修の受講

◎令和3年度キャリアパス研修 (内部研修・全職員必修)

実施月	内 容
4月	倫理及び法令順守/法人テキスト
5月	高齢者虐待防止
6月	第20期通常総会(オンライン)
7月	非常災害時・緊急時の対応
8/23	認知症及び認知症ケア① 事例発表:G 土橋、D 古田
9/27	介護予防及び要介護度進行予防のための口腔ケア もちもちの木歯科医院 岡部栄夫院長 (副理事長)
10月	プライバシー保護
11月	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止
12月	身体的拘束の排除の為の取り組み
1月	社会人基礎力「謙虚なリーダーシップ」
2月	事故発生・再発の防止「リスクマネジメント」
3/7	認知症及び認知症ケア② 事例発表:G 古田、D 土橋

◎外部研修受講 (全体)

実施日	内 容
8/16	広島臨床認知症研究会 1名受講
11/17・18 11/30~12/2 1/11	広島市認知症介護実践者研修 1名受講 (グループホーム土橋のおうち)
2/1	『認知症世界の歩き方』から考える医療とデザイン 1名受講

◎自主学習会もちもちの木ケアメソッド

毎週水曜日 20 時半～ 計 8 回開催

実施日	内 容
2/2	キックオフ「介護って何？」
2/9	①「認知症って何？」
2/16	②「皆さんの質問に答えます」
2/23	③「介護技術」その①実践編
3/2	④「アクティビティについて」
3/9	⑤「振り返り会」
3/16	⑥「介護の生理学」資料共有 オンライン無し
3/23	⑦「介護の生理学入門」
3/30	⑧「陰部洗浄について」介護の生理学より

## 7. 想いと活動の紹介

### ◎情報発信

- ・法人ニュースレター「もちもちの木 smile」  
令和 3 年夏号・令和 4 年冬号 各 2, 000 部発行
- ・法人ホームページ <https://mochi2.stars.ne.jp> のほか、Facebook、Instagram で随時情報発信を行った。

### ◎取材

- ・中国新聞『日本語教室 懸け橋 25 年目』2021 年 11 月 18 日 職員 米山丈児
- ・NHK『長寿の未来フォーラム 家族と暮らす ～認知症を“ともに”生きる社会へ～』  
オンライン全国配信 2022 年 3 月 6 日(日) 職員 米山丈児 理事長 竹中庸子
- ・中国新聞『若年性認知症 孤立防ごう』2022 年 3 月 16 日 職員 木田裕子
- ・経済レポート『才色兼備』 2022 年 3 月 29 日発行 2875 号 理事長 竹中庸子
- ・中国新聞 暮らし面 18p-19p 『ソロの時代 上 住宅難民』 2022 年 4 月 13 日(水)  
職員(居住支援担当) 平城智恵子 理事長 竹中庸子  
庚午のおうち入居者 I 様およびフルハウス構想について掲載





# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人もちもちの木

自 令和3年 4月 1日 至 令和4年 3月31日

事業) 広告宣伝費	531,035			
事業) リース料	3,624,628			
事業) 接待交際費	10,378			
事業) 運賃費	990			
事業) 総会費用	66,649			
事業) 建物付属設備減価償却費	7,699,938			
事業) 構築物減価償却費	80,568			
事業) 車両運搬具減価償却費	242,505			
事業) 器具備品減価償却費	593,364			
事業) 一括償却資産減価償却費	241,560			
事業) 雑費	883,882			
その他経費計	52,954,033			
事業費計				149,111,841
<b>【管理費】</b>				
(人件費)				
役員報酬	4,665,928			
法定福利費	643,789			
福利厚生費	9,135			
人件費計	5,318,852			
(その他経費)				
租税公課	11			
支払手数料	28,078			
広告宣伝費	1,003			
支払利息	196,996			
通信費	24,200			
支払報酬	935,500			
その他経費計	1,185,788			
管理費計		6,504,640		
経常費用計			155,616,481	
当期経常増減額			3,834,156	
<b>【経常外収益】</b>				
過年度損益修正益		371,444		
経常外収益計			371,444	
<b>【経常外費用】</b>				
固定資産除却損		678,155		
過年度損益修正損		412,532		
経常外費用計			1,090,687	
税引前当期正味財産増減額			3,114,913	
法人税、住民税及び事業税			121,000	
当期正味財産増減額			2,993,913	
前期繰越正味財産額			66,714,674	
次期繰越正味財産額			69,708,587	

**【重要な会計方針】**

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

## 貸借対照表

特定非営利活動法人もちもちの木  
全事業所

[税込] (単位:円)  
令和4年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	693,749		
小口現金	53,015		
普通預金	14,659,086		
定期貯金	900,000		
定期積金	720,000		
現金・預金計	17,025,850		
(売上債権)			
未収金	21,124,311		
売上債権計	21,124,311		
(その他流動資産)			
前払費用	1,211,048		
立替金	176,916		
仮払金	1,387,773		
保険積立金	616,320		
その他流動資産計	3,392,057		
流動資産合計		41,542,218	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物附属設備	60,364,669		
構築物	563,980		
車両運搬具	920,595		
什器備品	2,510,972		
一括償却資産	483,120		
有形固定資産計	64,843,336		
(投資その他の資産)			
リサイクル預託金	12,510		
敷金	6,830,000		
投資その他の資産計	6,842,510		
固定資産合計		71,685,846	
資産の部合計			113,228,064
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	7,587,336		
預り金	5,695,330		
未払法人税等	121,000		
流動負債計		13,403,666	
【固定負債】			
長期借入金	30,115,811		
固定負債計		30,115,811	
負債の部合計			43,519,477
《正味財産の部》			
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	66,714,674		
当期正味財産増減額	2,993,913		
正味財産計		69,708,587	
正味財産の部合計			69,708,587
負債・正味財産合計			113,228,064

### 【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

# 財 産 目 録

特定非営利活動法人もちもちの木  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和4年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現 金	693,749		
小口 現金	53,015		
普通 預金	14,659,086		
広島信用金庫	(9,313,305)		
ジャパンネット銀行	(37,184)		
ゆうちょ銀行	(2,863,000)		
中国労働金庫	(1,547,991)		
為替ゆうちょ	(493,292)		
広島信用金庫	(188,244)		
広島市信用組合	(13,500)		
広島銀行	(202,570)		
定期 貯金	900,000		
定期 積金	720,000		
広島信用金庫	(720,000)		
現金・預金 計	17,025,850		
(売上債権)			
未 収 金	21,124,311		
売上債権 計	21,124,311		
(その他流動資産)			
前払 費用	1,211,048		
立 替 金	176,916		
仮 払 金	1,387,773		
保険積立金	616,320		
その他流動資産 計	3,392,057		
流動資産合計		41,542,218	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物附属設備	60,364,669		
構 築 物	563,980		
車両運搬具	920,595		
什器 備品	2,510,972		
一括償却資産	483,120		
有形固定資産 計	64,843,336		
(投資その他の資産)			
リサイクル預託金	12,510		
敷 金	6,830,000		
投資その他の資産 計	6,842,510		
固定資産合計		71,685,846	
資産の部 合計			113,228,064
《負債の部》			
【流動負債】			
未 払 金	7,587,336		
預 り 金	5,695,330		
給与源泉預り金	(273,214)		
報酬源泉預り金	(17,866)		
住民税預り金	(5,200)		
雇用保険預り金	(57,379)		
社会保険預り金	(471,671)		
土橋グループ一時金	(1,700,000)		
古田グループ一時金	(2,700,000)		
庚午のおうち一時金	(470,000)		
未払法人税等	121,000		
流動負債 計		13,403,666	
【固定負債】			
長期借入金	30,115,811		
固定負債 計		30,115,811	
負債の部 合計			43,519,477
正味財産			69,708,587